



当初は慢性の統合失調症患者が主な対象であり、主として居場所としての使い方をされることが多く、アットホームな空気で、20名ほどの少人数で細々とやっていた。転換期は平成22年。リハビリを病院の掲げる3本



調子に乗って作ったテレホンカード

「悠遠」のあゆみ 精神障害にはリハビリが必要であることが認知されはじめ、社会性の獲得や就労のため、また安全な居場所としての機能を備える精神科デイケアが県下で初めて開設された。平成7年のことだった。



時代を感じさせる1枚。赤丸は大橋課長

柱の一つとして、リハビリを創設。山内リハビリ部長のもとでデイケアを単なる居場所ではなく本物のリハビリ、社会復帰のスタートラインとしての機能を充実させた。

SMAPデビュー もう一つは平成25年、リワークセンター「SMAP」の開設だ。県下初のリワークプログラムに当初は試行錯誤しながらもスタッフとプログラムの成長を促した。令和に入りコロナ禍のためやや減少したものの1日平均50人余りが来所しリハビリに励む施設となった。現在課長を務める神崎順次さんは「歴史を踏まえ自施設ならではのリカバリーを充実させる。時は来た！」と意気込みを語った。

リワーク 指導スタッフに4名が合格 この度日本うつ病リワーク協会のスタッフ認定制度において、和田祐己係長・門脇真司主任・馬淵真衣心理士・内木克治係長(GSC)の4名が「指導スタッフ」に合格。法人全体では7名が指導スタッフとなっており、全国的にも異例の多さとなった。



デイケアスタッフ 表情は硬め

GSC通信⑦ クリニックの外來コンピが今熱い。まずはお姉さん格の米澤梨絵さん(写真右)入りがRUTENKAPPA。マニアックすぎて誰も共感してくれない。ほかにもハマっているのは道の駅巡り。お気に入りのは紀宝町の「ウミガメ公園」やはり共感を得られていない。

「水谷係長の独り言」 「病院給食も40年かあ。もつとも俺は28年前の入職だからその頃からしか知らんけど。それでも今と比べると患者や職員の数も少なくて随分こぢんまりやっていたんだよね。職員食堂なんかは暗くて殺風景だったよな...

「食のこだわり」 今のカフェテリアが出来たときはその斬新さと明るさに度肝を抜かれたもんだ。ただ最近病棟で食事管理が問題になり保温管理の配膳車になり患者さんからはご飯が熱すぎると言われるくらいさ。あと時代とともにメニューは増えた。マンネリにならないようこの20年でメニューは千種類以上増えているんだ。50周年を迎える頃にはどんな給食になっているか楽しみだよ。

「お酒大好き。イエーイ!!」 幸せ」と心配な事を言う「まだここでは不慣れな新人ですがよろしくお願ひします」と謙虚に語る二人だがカメラを向けるとすかさずギョルピースをするノリの良さ。ただ米澤さんは若干ギョルピース代ではないためこちなさは否めなかった。

Q な、七人！よくやりましたね。 橋田「私は心理職でしたが人がいないから相談業務や事務仕事も兼務してました。多忙でしたが病院が発展していくのを肌で感じるの楽しいもんでしたよ」

Q 完全にブラック企業です。 山内「早朝から当時の院長と往診に出掛けて、病院に帰った後食べた炊き立てのご飯とお味噌汁かしら」

◆養南猫部活動報告 猫部の主な活動の一つが猫へのエサやりだ。猫たちはとにかく食欲が旺盛で、やってもやってもすぐになくなってしまふよう。エサやりは当番制で、この日のエサやりを担当していた作業療法課の笠原優希さんと桂川(旧姓 坂本)ゆいさんは、「エサやりは大変だけどみんな協力して頑張ります」と猫たちを見守る優しい表情で話した。

◆10月の家族教室 10月15日(日)恒例の家族教室が開催され、心理課の橋田勝美部長が「うつ病の理解と支援」と題する講演を行なった。

◆11月の家族教室 第一部：講演 題名 デイケアについて 講師：神崎順次課長 第二部：グループワーク 日時：11月19日(日) 14時～16時 場所：デイケアセンター 対象：統合失調症 患者様とご家族

開谷院長は「40周年といても県内では最も歴史が浅い病院。50周年には更に進化した養南病院をお見せできれば」と話をした。

先代理事長逝去 転機を迎えたのは2003年(平成15年)。重道氏が心筋梗塞で享年62歳で急逝し急遽長男の道晴氏(当時33歳)が後を引き継ぐ格好となった。奇しくも病院の歴史の丁度半分、開設20年の時であった。

開院披露 更なる進化を 先代亡き後も病院は、残されたスタッフの頑張りやリワークセンター(平成17年)やリワークセンター(平成25年)など先進的な取り組みが評価されるようになった。

開院当時のスタッフ。これでほぼ全員 開院当時のスタッフ。これでほぼ全員

この11月30日に養南病院は開設40年を迎える。来月には記念式典も執り行われる予定。 TDLとは同期 この南濃町の果樹園に病院が姿を現したのが1983年(昭和58年)、東京ダイズニールランドと同じ年だった。

開院当時の養南病院 開院当時の養南病院

開院パーティでの開谷院長(中2) 左端は実姉の田中医師

先代理事長と児玉事務長(当時) 2人とも42歳とは思えない

現在の明る～いカフェテリア 現在の明る～いカフェテリア

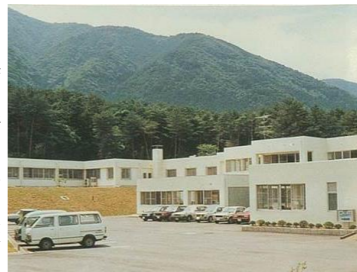
今回の養南新聞は令和6年1月号(1000号)記念になります。どうぞお楽しみに!

このご飯とみそ汁ですかねえ! 一緒にいいでもきつと格別だったんでしょね。まだまだ元気なお二人でした。

今回の養南新聞は令和6年1月号(1000号)記念になります。どうぞお楽しみに!

祝 養南病院開院 40周年迎える!!

この11月30日に養南病院は開設40年を迎える。来月には記念式典も執り行われる予定。 TDLとは同期 この南濃町の果樹園に病院が姿を現したのが1983年(昭和58年)、東京ダイズニールランドと同じ年だった。



開院当時の養南病院

開院パーティでの開谷院長(中2) 左端は実姉の田中医師



先代理事長と児玉事務長(当時) 2人とも42歳とは思えない

「水谷係長の独り言」 「病院給食も40年かあ。もつとも俺は28年前の入職だからその頃からしか知らんけど。それでも今と比べると患者や職員の数も少なくて随分こぢんまりやっていたんだよね。職員食堂なんかは暗くて殺風景だったよな...

「食のこだわり」 今のカフェテリアが出来たときはその斬新さと明るさに度肝を抜かれたもんだ。ただ最近病棟で食事管理が問題になり保温管理の配膳車になり患者さんからはご飯が熱すぎると言われるくらいさ。あと時代とともにメニューは増えた。マンネリにならないようこの20年でメニューは千種類以上増えているんだ。50周年を迎える頃にはどんな給食になっているか楽しみだよ。

◆10月の家族教室 10月15日(日)恒例の家族教室が開催され、心理課の橋田勝美部長が「うつ病の理解と支援」と題する講演を行なった。

◆11月の家族教室 第一部：講演 題名 デイケアについて 講師：神崎順次課長 第二部：グループワーク 日時：11月19日(日) 14時～16時 場所：デイケアセンター 対象：統合失調症 患者様とご家族

現在の明る～いカフェテリア 現在の明る～いカフェテリア

今回の養南新聞は令和6年1月号(1000号)記念になります。どうぞお楽しみに!

養南新聞 発行所 社会医療法人 緑峰会 養南病院 〒503-0401 海津市南濃町津屋1508 電話(0584)57-2511 Fax(0584)57-2513 http://www.youan.or.jp @youan@ogaki-tv.ne.jp

支援アパート ネットステージG棟 2023年7月完成 入居者募集中! 次のステージを目指してみませんか? ★入居については主治医にご相談ください